



# 最後の警告

神の国の到来に  
先立って起こる出来事

ボグスワフ・ノヴァク  
(カトリック司祭)

## 詩編 2 編

なにゆえ、国々は騒ぎ立ち  
人々はむなしく声をあげるのか。  
なにゆえ、地上の王は構え、支配者は結束して  
主に逆らい、主の油注がれた方に逆らうのか  
「我らは、枷をはずし  
縄を切って投げ捨てよう」と。  
天を王座とする方は笑い  
主は彼らを嘲り／憤って、恐怖に落とし  
怒って、彼らに宣言される。  
「聖なる山シオンで  
わたしは自ら、王を即位させた。」  
主の定められたところに従ってわたしは述べよう。  
主はわたしに告げられた。  
「お前はわたしの子／今日、わたしはお前を生んだ。  
求めよ。わたしは国々をお前の嗣業とし  
地の果てまで、お前の領土とする。  
お前は鉄の杖で彼らを打ち  
陶工が器を砕くように砕く。」  
すべての王よ、今や目覚めよ。  
地を治める者よ、論しを受けよ。  
恐れ敬って、主に仕え  
おののきつつ、喜び躍れ。  
子に口づけせよ  
主の憤りを招き、道を失うことのないように。  
主の怒りはまたたくまに燃え上がる。  
いかに幸いなことか  
主を避けどころとする人はすべて。

## 導入

近年、私たちの世界には多くの変化が起こっています。人々が慣れていて、普通と考えられた生活様式がこの変化によって破壊されて、過去のものとなってしまったと言えるのではないかと思います。これらの変化は、特に世界的大流行が発表された 2020 年の初め以来加速しています。

多くの人が安定感を失い、自分自身の将来や世界の将来について不安を抱えて生きています。この状態の影響の一つは、さまざまなメンタルヘルスの問題で悩む人々の大幅な増加と、自殺の数の増加です。非常に悲しいことに、自殺の数は、大人の不安や無力感を強く感じ取る子どもたちの間でも増加しています。

世界で起こっているすべてのことに何らかの意義を見出すことは可能でしょうか。現状で安心して有意義でやりがいのある生活を送ることは可能でしょうか。

私にとって現在の出来事の意義を理解する上で大きな助けとなったのは、神の国へのカウントダウン（Countdown to the Kingdom）のウェブサイト（[www.countdowntothekingdom.com](http://www.countdowntothekingdom.com)）に投稿された 2 人のカトリック信徒、Mark Mallett i Daniel O'Connor による現在の状況の分析でした。

著者たちは、現代の出来事において聖ヨハネの黙示録に書かれた予言の成就を見ています。この予言は、小羊が 7 つの封印を開くことによって象徴的に表現されています。著者たちは、現在世界で起こっていることを大きなハリケーン（サイクロン、嵐）に譬えています。そして、神がこのハリケーンを通して地球を清めてくださってから、新しくなった地球上で神の国を確立してくださると考えています。ハリケーンに譬えられた出来事は神の働きではなく、人間自身の働きの結果であると強調しています。それは、正にホセアの次の言葉通りです。すなわち、「彼らは風をまき、嵐を刈り取る」（ホセア 8、7）。

黙示録の予言のこの解釈は、多くの教父、神秘主義者、教皇の教え、そして私的啓示に基づいています。それを説明するために、著者たちはハリケーンの衛星写真を背景に、予告された出来事をタイムラインに配置しました（裏表紙参照）。ただし、これらの出来事は図に並んでいる順番に次々と起こるということを意味するものではありません。むしろ、それはさまざまな強度で同時に発生する出来事のグループと考えるべ

きです。「いつくしみの門」のグループの出来事は、静かになっているハリケーンの中心に配置されている「警告」の前に起こるものです。一方、「正義の門」のグループの出来事は、「警告」後と神の国の到来の間に起こるものです。

この解釈を知ることで、現在および将来の出来事に対する私たちの反応と同時に、この反応がもたらす結果が決まるのではないかと思います。ここでは、非常に簡単な形で、この解釈の私の理解を紹介し、それを読んだときに考えたことや意識したことを共有したいと思います。

神の国へのカウントダウンのウェブサイトで詳細を読むことをお勧めします。そこでは、著者たちが聖書からの多くの引用と共に、教父、教皇、神秘主義者、聖人、また、私的啓示からも多くの引用を提供して、それを説明しています。

## 1. 教会の最後の試練<sup>1</sup>

誰が実際に神の意志に従って生きているのか、誰がそうでないのかを判断するのは私たちではありませんが、多くの人々に苦しみをもたらす不正やその他の悪は、神の意志に完全に反していると確信できます。イエスご自身がサタンをこの世の支配者と呼び（ヨハネ 12,31; 14,30）<sup>2</sup>、受難の時は、闇の支配の時であると宣言しました（ルカ 22,53）<sup>3</sup>。このイエスの言葉は現代にも当てはまると思います。残念ながら、世界と教会自体の両方で、意識的に、または、そんなつもりがなくても実際にサタンに仕え、彼の計画、すなわち、キリストの教会を破壊し、できるだけ多くの人々を神から引き離すという計画を実行している多くの人々がいます。悪の力は非常に強力で、神でさえそれに対して無力であるという印象を受けることがあるでしょう。ただし、これは外観にすぎないのです。

神の真の全能性と神の絶え間ない救いの働きは、白い馬に乗った人によって示されます。彼は、最初の封印を開いた後、「勝利の上に更に勝利を得ようと出て行った」（黙示録 6,1-2）<sup>4</sup>と述べられています。この人は、十字架上で死と死者の中からの復活を通して、すでにサタンを打ち負かし、人々に救いの恵を与えることによって、また、神の国を完成

---

<sup>1</sup>「キリストの来臨の前に、教会は多くの信者の信仰を動揺させる最後の試練を経なければなりません。教会のこの世における旅路に伴う迫害は、そのとき、人生の諸問題の見せかけの回答を人々に与えて真理を捨てさせる偽宗教の形をとった、「不法の秘密の力」を現すでしょう。この偽宗教の最たるものは反キリストのそれで、人間が神と受肉された神の御子であるメシアに替わって自らに栄光を帰す、偽りのメシア観です（カトリック教会のカテキズム 675）。

<sup>2</sup>「今こそ、この世が裁かれる時。今、この世の支配者が追放される」（ヨハ 12,31）。

「もはや、あなたがたと多くを語るまい。世の支配者が来るからである。だが、彼はわたしをどうすることもできない」（ヨハ 14,30）。

<sup>3</sup>「わたしは毎日、神殿の境内で一緒にいたのに、あなたたちはわたしに手を下さなかった。だが、今はあなたたちの時で、闇が力を振るっている。」（ルカ 22,53）

<sup>4</sup>「また、わたしが見ていると、小羊が七つの封印の一つを開いた。すると、四つの生き物の一つが、雷のような声で「出て来い」と言うのを、わたしは聞いた。そして見ていると、見よ、白い馬が現れ、乗っている者は、弓を持っていた。彼は冠を与えられ、勝利の上に更に勝利を得ようと出て行った。」（黙 6:1-2）

することによって、この勝利を完全なものにするイエス・キリストの象徴なのです。

毒麦のたとえ話（マタ 13,24-30）<sup>5</sup>を通して、イエス・キリストは、神の意志に従って生きる人々を守るため、また、すべての人に回心するチャンスと救いの恵を受け入れるチャンスを与えるために、可能な限り、罪に生きている人々を許容すると同時に、彼らの行動から生じる悪を許容すると教えています。けれども、彼が善と悪を分離し、主の祈りの中で表現されているキリスト者の祈願を聞き入れて、完全に神の意志に一致する現実、すなわち、神の国を確立する時が来ると約束してくださるのです。

いつくしみ深い父である神は、無限で、無条件の愛をもって一人ひとりの人を愛しておられますので、神のすべての決断、たとえそれは、神ご自身の行動ではなく、神の意志に反する他者の行動を許可するような決断であっても、すべては、私たちにとって最善であると確信することができます。しかし、これは私たちが神の決断の意義や目的を常に理解できるという意味ではありません。キリスト者を含む多くの無罪な人々の苦難や反キリストの支配を許すという神の決断は、私たちにとって特に理解しがたいものであると思います。

教会がキリストの神秘的な体であり、キリストの救いのわざを続けて、イエス・キリストが一人の人間としてこの地上で働いたときに歩んだ道と、本質的に同じ道を歩んでいるという事実を思い出すことは、少なくともある程度まで、神の決断を理解するのに役立つと思います。

「直接にも、間接にも、いかなる意味においても、道徳的悪の原因ではない」（カトリック教会のカテキズム 311）神は、御子の受難や十字架上の死を望まなかったが、私たちの罪を贖うために、また、私たちが神

---

<sup>5</sup> 「イエスは、別のたとえを持ち出して言われた。『天の国は次のようにたとえられる。ある人が良い種を畑に蒔いた。人々が眠っている間に、敵が来て、麦の中に毒麦を蒔いて行った。芽が出て、実ってみると、毒麦も現れた。僕たちが主人のところに来て言った。「だんなさま、畑には良い種をお蒔きになったではありませんか。どこから毒麦が入ったのでしょうか。」主人は、「敵の仕業だ」と言った。そこで、僕たちが、「では、行って抜き集めておきましょうか」と言うと、主人は言った。「いや、毒麦を集めるとき、麦まで一緒に抜くかもしれない。刈り入れまで、両方とも育つままにしておきなさい。刈り入れの時、『まず毒麦を集め、焼くために束にし、麦の方は集めて倉に入れなさい』と、刈り取る者に言いつけよう。』（マタ 13,24）

と和解することが可能になるために<sup>6</sup>、それをお許しになったのです。それと同じように、神が教会の苦しみとその見かけの消滅を許されるのは、教会の復活によって救いのわざを完成させるためであると考えることができます。

イエスは、裏切り者となったイスカリオテのユダを使徒たちの団体に入るのを許したように、イエスの信頼を裏切り、教会を内部から破壊する人々が司教団や司祭団に入ることを許しています。また、イエスは、イスラエルの指導者たちがユダの裏切りを利用して、イエスを逮捕し、不正な裁判を起こして、死刑の判決を下すのを許したように、教会に対して敵意をもっている多くの人々が、これらの裏切り者の行動を、教会の道徳的権威を破壊し、最終的には教会自体を破壊するために利用することをも許しているのです。

キリストを裏切っている人々の行動とキリストの教会に対して敵意をもっている人々の行動は、キリストの受難と死と同じように望ましくない悪であり、真のカトリック信徒にとって非常に大きな苦痛ですが、イエス・キリストは、それをより大きな善のために利用しています。この善とは、教会の浄化です。この浄化は、いろいろなスキャンダルのため、そして教会が自分の威信や道徳的権威、また評判や人気を失っているため、元々ただ習慣的に、または、何らかの個人的な利益のためにだけ教会に通っていて、生きた信仰とイエス・キリストへの真の愛をもっていなかった人々が、教会から離れていくことによって行われているのです。この大きな背教（教会離れ）は、終わりの時のしるしとして、第二テサロニケの信徒への手紙（2 テサ 2,3）<sup>7</sup>と第一テモテへの手紙（1 テモテ 4,1-2）<sup>8</sup>の中で予告されています。

---

<sup>6</sup> 「これまでに行われた最大の道徳的悪は、神の御子を排斥し殺害したことです。これはあらゆる人間の罪が原因ですが、神は満ちあふれる恵みによって、そこから最大の善であるキリストの栄光とわたしたちのあがないを引き出されました。とはいえ、悪が善になるわけではありません」（カトリック教会のカテキズム 312）。

<sup>7</sup> 「だれがどのような手段を用いても、だまされてはいけません。なぜなら、まず、神に対する反逆が起こり、不法の者、つまり、滅びの子が出現しなければならぬからです」（テサ 2,3）。

<sup>8</sup> 「しかし、“霊”は次のように明確に告げておられます。終わりの時には、惑わす霊と、悪霊どもの教えとに心を奪われ、信仰から脱落する者がいます。このことは、偽りを語る者たちの偽善によって引き起こされるのです」（1 テモ 4,1-2）。

この教会離れは、イエスの教えを聞き、イエスが行った奇跡を見、エルサレムまでイエスに従った人々が、イエスから離れたことを思い起こさせます。この人々がイエスから離れて、イエスを殺そうとした人々の側に移ったのは、イエスが逮捕され裁判にかけられた後です。元々、これらの人々がイエスに従ったのは、イエスの力がイスラエルの権力者の力よりも大きいと確信したからと推測できます。しかし、彼らは屈辱されているイエスの姿、すべての魅力と権威を失い、完全に無力に見えたイエスの姿を見たとき、実際にイスラエルの指導者たちが権力を握っていると考えて、イエスから離れて、権力者の側に立つ方が安全であると結論付けたでしょう。

イエス・キリストは、教会を清めるためにのみならず、できるだけ多くの人々に永遠の命を与えるためにも働いています。したがって、彼は回心するチャンス、神の命と愛に預かるための招待を受け入れるチャンスをすべての人々に与えたいと望んでいます。多くの神秘主義者、聖人、そして私的啓示を受けたキリスト者たちが「警告」、「良心の悟り」、または、「小さな判断」と呼ぶ出来事が、そのような回心のチャンスとなるのです。

## 2. 警告の準備

黙示録において6番目の封印が開かれた後に起こる警告の前には、他の4つの封印が開かれます。Mark Mallett i Daniel O'Connorの解釈によると、2番目の封印の開封（黙 6,3-4）<sup>9</sup>は、世界平和の崩壊、すなわち主要な武力紛争の発生、3番目の封印の開封（黙 6,5-6）<sup>10</sup>は、世界経済の崩壊、4番目の封印の開封（黙 6,7-8）<sup>11</sup>は、社会秩序の崩壊、および5番目の封印の開封（黙 6,9-11）<sup>12</sup>は、キリスト教徒の迫害を象徴的に告げるものです。

私たちはすでに、これらすべての予告のさまざまな程度の実現を体験することができます。象徴的なハリケーンの目に、つまり警告に近づくほど、出来事の強度とペースが増し、世界の状況はますます悪化すると考えられます。世界の混乱は、地震、火山噴火、洪水、飢饉、新しい病気などのさまざまな自然災害によって、さらに悪化されるようです。

多くの私的啓示では、イエスとマリアの両方が、近い未来に突然に、食糧がなくなると警告しています。したがって、その時を待たずに今す

---

<sup>9</sup> 「小羊が第二の封印を開いたとき、第二の生き物が「出て来い」と言うのを、わたしは聞いた。すると、火のように赤い別の馬が現れた。その馬に乗っている者には、地上から平和を奪い取って、殺し合いをさせる力が与えられた。また、この者には大きな剣が与えられた。」（黙 6,3-4）

<sup>10</sup> 「小羊が第三の封印を開いたとき、第三の生き物が「出て来い」と言うのを、わたしは聞いた。そして見ていると、見よ、黒い馬が現れ、乗っている者は、手に秤を持っていた。わたしは、四つの生き物の間から出る声のようなものが、こう言うのを聞いた。「小麦は一コイニクスで一デナリオン。大麦は三コイニクスで一デナリオン。オリーブ油とぶどう酒とを損なうな。」（黙 6,5-6）

<sup>11</sup> 「小羊が第四の封印を開いたとき、「出て来い」と言う第四の生き物の声を、わたしは聞いた。そして見ていると、見よ、青白い馬が現れ、乗っている者の名は「死」といい、これに陰府が従っていた。彼らには、地上の四分の一を支配し、剣と飢饉と死をもって、更に地上の野獣で人を滅ぼす権威が与えられた。」（黙 6,7-8）

<sup>12</sup> 「小羊が第五の封印を開いたとき、神の言葉と自分たちがたてた証しのために殺された人々の魂を、わたしは祭壇の下に見た。彼らは大声でこう叫んだ。「真実で聖なる主よ、いつまで裁きを行わず、地に住む者にわたしたちの血の復讐をなさないのですか。」すると、その一人一人に、白い衣が与えられ、また、自分たちと同じように殺されようとしている兄弟であり、仲間の僕である者たちの数が満ちるまで、なお、しばらく静かに待つようにと告げられた。」（黙 6,9-11）

ぐ、食料や水や薬などの備蓄を準備するように促します。この危機は、洪水がノアの警告を信じなかった人々を驚かせたように、多くの人々を驚かせます。ですから、私たちは自分自身と自分の家族のためだけでなく、何も準備できない人々と分かち合えるために余分な備蓄をすることが望ましいです。

科学と技術の偉大な功績のおかげで、現代人類はこれまで解決できなかった問題を解決し、昔は絶対に治せなかった多くの病気を治すことが可能になりました。また、現代の科学と技術は、他に多くの新しい可能性を与えるために、多くの人々が快適な暮らしをすることが出来るようになりました。けれども、そのようなありがたい結果以外に悲しい結果もあります。現代の多くの人々は、人類にはすべての問題を解決する力があり、長くて、幸せな生活、少なくとも快適で、楽しい生活を確保できると確信するようになりました。この幻想の中で生きる人は、神の戒めを無視するだけでなく、創造主によって確立された自然法則に完全に反する法律を作るほど傲慢になってしまったのです。

永遠に続き、益々快適で安全になると多くの人によって思われたこの世界は、目の前で消滅しつつあります。現在の世界の破壊は、人間の傲慢と不信仰に対する神の復讐ではなく、人間の罪深い行動の結果です。これらの行動は、人間と神との関係、対人関係、自然環境を破壊するだけでなく、人間の最大の敵であるサタンの行動に対して、個々の人間と人類全体の開放性を高めます。

今まで、神はサタンの行動と人間の罪深い選択の痛ましい結果の両方を制限してきました。このようにして、神は人への愛を示し、人々を回心と和解に招きました。残念ながら、ほとんどの人は神の招きに応じませんでした。それどころか、彼らは神の善意を不処罰で罪を犯すために悪用しています。そのような状況では、人の回心の最後のチャンスとは、自身の罪深い行動の苦しい結果、またサタンの憎しみと彼の破壊的な力を経験することです。その理由で、神が既存の制限を少しづつ取り除き、人とサタンの両方がますます思うままに行動することを許しておられるわけなのです (2テサ 2,1-12)<sup>13</sup>。

---

<sup>13</sup> 「さて、兄弟たち、わたしたちの主イエス・キリストが来られることと、そのみもとにわたしたちが集められることについてお願いしたい。霊や言葉によって、あるいは、わたしたちから書き送られたという手紙によって、主の日は既に来てしまったかのように言う者がいても、すぐに動揺して分別を無くしたり、慌てふためいたりしないでほしい。だれがどのような手段を用い

### 3. 警告

警告が起こる瞬間、一人ひとりの人は、神が私たちを見るように自分の魂の状態、また、創造主との関係の状態を見る、つまり、この状態を実際にあるように見ることとなります。誰もこの真実を否定することも、何らかの形でそれを自分自身から隠したりすることも出来ません。すべての人々は、自分の前で受難のイエスの姿を見て、自分の行いとイエスの愛の絶え間ない拒絶によって、彼にどんな傷を負わせたかが分かります。さらに、一人ひとりが、その瞬間に死んで、最終的に神に裁かれたとしたら、自分の永遠がどうなっていたかをはっきりと認識するようになるのです。

黙示録の6番目の封印の開封が、この経験について語っています（黙6,12-17）<sup>14</sup>。それは、人の自己像を破壊し、この人の世界を変える地震

---

でも、だまされてはいけません。なぜなら、まず、神に対する反逆が起こり、不法の者、つまり、滅びの子が出現しなければならないからです。この者は、すべて神と呼ばれたり拝まれたりするものに反抗して、傲慢にふるまい、ついには、神殿に座り込み、自分こそは神であると宣言するのです。まだわたしがあなたがたのもとにいたとき、これらのことを繰り返し語っていたのを思い出しませんか。

今、彼を抑えているものがあることは、あなたがたも知っているとおりで。それは、定められた時に彼が現れるためなのです。不法の秘密の力は既に働いています。ただそれは、今のところ抑えている者が、取り除かれるまでのことです。その時が来ると、不法の者が現れますが、主イエスは彼を御自分の口から吐く息で殺し、来られるときの御姿の輝かしい光で滅ぼしてしまわれます。不法の者は、サタンの働きによって現れ、あらゆる偽りの奇跡とするしと不思議な業とを行い、そして、あらゆる不義を用いて、滅びていく人々を欺くのです。彼らが滅びるのは、自分たちの救いとなる真理を愛そうとしなかったからです。それで、神は彼らに惑わす力を送られ、その人たちは偽りを信じるようになります。こうして、真理を信じないで不義を喜んでいた者は皆、裁かれるのです。」（2テサ 2,1-12）

<sup>14</sup> 「また、見ていると、小羊が第六の封印を開いた。そのとき、大地震が起きて、太陽は毛の粗い布地のように暗くなり、月は全体が血のようになって、天の星は地上に落ちた。まるで、いちじくの青い実が、大風に揺さぶられて振り落とされるようだった。天は巻物が巻き取られるように消え去り、山も島も、みなその場所から移された。地上の王、高官、千人隊長、富める者、力ある者、また、奴隷も自由な身分の者もことごとく、洞穴や山の岩間に隠れ、山と岩に向かって、『わたしたちの上に覆いかぶさって、玉座に座っておられる方の顔と小羊の怒りから、わたしたちをかかまってくれ』と言った。

のようなものです。自分自身を完全に欺いて、現実から随分離れていた自己像をもって生きていた人々は、自分の魂の実際の状態を見たら、それに耐えることができません。そして、永遠の罰の見通しによって引き起こされる恐れは、彼らが死にたいと思うほど大きくなるでしょう。

自分の真の状態を知ることによってほとんどの人が大きな痛みを経験するにもかかわらず、警告は、十字架上のイエスの死とイエスの復活の次に、最大の奇跡と神のいつくしみの最大の行為となるのです。多くの人々にとって、それは回心し、永遠の滅びを避ける最後のチャンスです。この永遠の滅びとは、完全な孤独と想像を絶する苦しみの中で、しかも、この状態がいつか変わるという希望なしに、また、この状態が自分自身の完全な責任であると常に意識しながら永遠に生きることなのです。

自分の魂の実際の状態と自分の生き方の永遠の結果を知らされてから、一人ひとりの人は、さらなる人生について、その結果を完全に知りながら、自由に決断する時間を与えてもらいます。黙示録においてこの時間は7番目の封印が開かれた後に天国で続いた大きな沈黙として表現されています(黙 8,1)<sup>15</sup>。この沈黙とは、特定の期間、人は何の誘惑もされない、つまり、サタンにもこの世にも、自分の欲望や誤った確信にも欺くことがないということなのです。この独特の恵みのおかげで、神の招待を受け入れるか拒否するか、つまり神を選ぶか反対するかという決定は、完全に意識的で、自由で、責任のある決断となるのです。

警告のための最善の準備は、和解の秘跡を受けること、さらに、断食や償いを実践すること、そして大罪のない状態で生き続け、聖体拝領をできるだけ頻繁にすることです。警告の準備がよく整っているほど、間違った決定を下すリスクが少なくなり、この経験の成果が高まります。

多くの私的啓示の中で、イエスとマリアの両方が、警告の後、以前に教会から離れた多くの信者が教会に戻ることに、また、キリスト者ではない多くの方は、回心して、洗礼を受けることを教えてください。

警告と自由な決定のための時間は、神のいつくしみの最大の行為となるだけでなく、いつくしみの時代を締めくくる行為にもなるのです。その時から、正義の時代が始まります。いつくしみの門を通過することを拒否した人々は、正義の門を通過しなければならなくなるわけです。

---

神と小羊の怒りの大いなる日が来たからである。だれがそれに耐えられるであろうか。」(黙 6,12-17)

<sup>15</sup> 「小羊が第七の封印を開いたとき、天は半時間ほど沈黙に包まれた。」(黙 8,1)

#### 4. 反キリストの支配と最後の浄化

残念ながら、警告という神のいつくしみの偉大なわざの経験にもかかわらず、神の招待を拒否し、神に反対する人々がいるでしょう。このため、社会の二極化が進み、同時に神の敵の羨望と残酷さが深まり、警告の直後はキリストとその教会の勝利の時ではなく、激しい迫害の時となり、キリストの信者の多くは殉教の死を迎えるでしょう。というのは、サタンは自分の使いを通して、あらゆる手段を用いて、警告の後に神を選んだ人々の決断を変えさせるように試みます。それから、キリストと共にとどまる人々を完全に全滅させることを目的とする厳しい迫害を起こすということです。神の言葉の予告によると、そのとき、42ヶ月間の反キリストの支配が始まります（黙 11,1-2; 13,1-5）<sup>16</sup>。

反キリストが世界を支配し始めると、彼は自分自身が真のメシア、つまり人類に真の平和を与え、永続的な安全を確保し、問題のない幸せな生活を提供することができる唯一の人であると多くの人々に納得させます。この嘘を信じるキリスト者は、イエスにだまされたと感じたり、警告の経験が幻想や夢に過ぎなかったと考えたりするようになるかもしれません。そして、彼らは自分の決断を変えて、イエスの敵の側に立つでしょう。私たちはそのような危険を認識し、いかなる状況においても、メシアの名を名乗る人々の言葉を信用しないように気を付けなけれ

---

<sup>16</sup> 「それから、わたしは杖のような物差しを与えられて、こう告げられた。『立って神の神殿と祭壇とを測り、また、そこで礼拝している者たちを数えよ。しかし、神殿の外の庭はそのままにしておけ。測ってはいけない。そこは異邦人に与えられたからである。彼らは、四十二か月の間、この聖なる都を踏みにじるであろう』」（黙 11,1-2）。

「わたしはまた、一匹の獣が海の中から上って来るのを見た。これには十本の角と七つの頭があった。それらの角には十の王冠があり、頭には神を冒瀆するさまざまの名が記されていた。わたしが見たこの獣は、豹に似ており、足は熊の足のようで、口は獅子の口のようであった。竜はこの獣に、自分の力と王座と大きな権威とを与えた。この獣の頭の一つが傷つけられて、死んだと思われたが、この致命的な傷も治ってしまった。そこで、全地は驚いてこの獣に服従した。竜が自分の権威をこの獣に与えたので、人々は竜を拝んだ。人々はまた、この獣をも拝んでこう言った。「だれが、この獣と肩を並べることができようか。だれが、この獣と戦うことができようか。」この獣にはまた、大言と冒瀆の言葉を吐く口が与えられ、四十二か月の間、活動する権威が与えられた。」（黙 13,1-5）

ばならないのです（マタ 24,4-24）<sup>17</sup>。

反キリストの欺瞞に屈することなく、迫害のさ中にもイエスに忠実であるキリスト者は、キリストに従う動機を清められ、イエスへの信仰、信頼と愛を深めます。このようにして、教会の浄化が完了します。忠実であり続けるキリスト者は、「小さな群れ」（ルカ 12,32）<sup>18</sup>になりますが、この「残りの者」から新たな教会が生まれるのです。

反キリストは人々の愛を自分自身に向けさせることができないので、彼は自分自身への恐れを呼び起こし、全体主義的支配の制度を通して人々に自分自身を神であるかのように崇拝するように強制します。キリスト者たちは、反キリストの支配下の世界に生きる権利がないので、生き続けるために隠れることが必要になります。この状況は、イエス・キリストのご遺体が墓に置かれ、使徒たちが最後の晩餐が行われた部屋に隠れていて、イエスを死に至らしめた人々が勝利を祝っていた三日間に似たものになるでしょう。

多くの私的啓示において、イエスとマリアは、黙示録の中で（黙 12,1-5）<sup>19</sup>マリアと教会の両方の象徴である女性のために避難場所が用意されたように、キリスト者のために避難場所を準備することを約束します。一部のキリスト者にとって、それは物理的な避難所、つまり迫害者から隠れて、共同生活を送ることの出来る特定の場所となります。けれども、

---

<sup>17</sup> 「イエスはお答えになった。『人に惑わされないように気をつけなさい。わたしの名を名乗る者が大勢現れ、「わたしがメシアだ」と言って、多くの人を惑わすだろう』（マタ 24,4-5）

「そのとき、『見よ、ここにメシアがいる』『いや、ここだ』と言う者がいても、信じてはならない。偽メシアや偽預言者が現れて、大きなしるしや不思議な業を行い、できれば、選ばれた人たちをも惑わそうとするからである」（マタ 24,23）。

<sup>18</sup> 「小さな群れよ、恐れるな。あなたがたの父は喜んで神の国をくださる」（ルカ 12:32）。

<sup>19</sup> 「また、天に大きなしるしが現れた。一人の女が身に太陽をまとい、月を足の下にし、頭には十二の星の冠をかぶっていた。女は身ごもっていたが、子を産む痛みと苦しみのため叫んでいた。また、もう一つのしるしが天に現れた。見よ、火のように赤い大きな竜である。これには七つの頭と十本の角があつて、その頭に七つの冠をかぶっていた。竜の尾は、天の星の三分の一を掃き寄せて、地上に投げつけた。そして、竜は子を産もうとしている女の前に立ちはだかり、産んだら、その子を食べてしまおうとしていた。女は男の子を産んだ。この子は、鉄の杖ですべての国民を治めることになっていた。子は神のもとへ、その玉座へ引き上げられた」（黙 12,1-5）。

すべてのキリスト者にとって最も確実な避難所とは、マリアの汚れなき御心という霊的な避難所なのです。したがって、これらの物理的な避難場所に案内されるかどうかにかかわらず、すべてのキリスト者は自分自身を母マリアに自己奉獻することによって、マリアの特別な保護を確保する必要があります。

反キリストの支配とキリスト教徒の迫害は、3日間の暗闇で終わります。これらの3日間の間に、地球はすべての悪とサタンのすべての使いたちから完全に清められます。要するに、イエス・キリストの次の約束が成就されるのです。「刈り入れの時、『まず毒麦を集め、焼くために束にし、麦の方は集めて倉に入れなさい』と、刈り取る者に言いつけよう」(マタ 13,30)。その間、必ず自分がいる家にとどまりながら、祈らなければならないことを決して忘れてはいけません。そして、外で何が起きているかという好奇心がいくら強くても、窓から外をのぞかないように気を付けなければならないのです。

明かりが再び戻るとき、平和の時が始まります。それは、黙示録で「キリストの千年の大国」と呼ばれている時で(黙 20,1-4)<sup>20</sup>、世界平和の実現についての預言者イザヤの予言(イザ 2,2-5)の成就の時です。要するに、「御国が来ますように」という私たちの願いに応え、神は地上でご自分の国を実現してくださるわけです。

この平和の時の後にのみ、キリストが再臨されて、この世界の歴史を終わらせるのです。

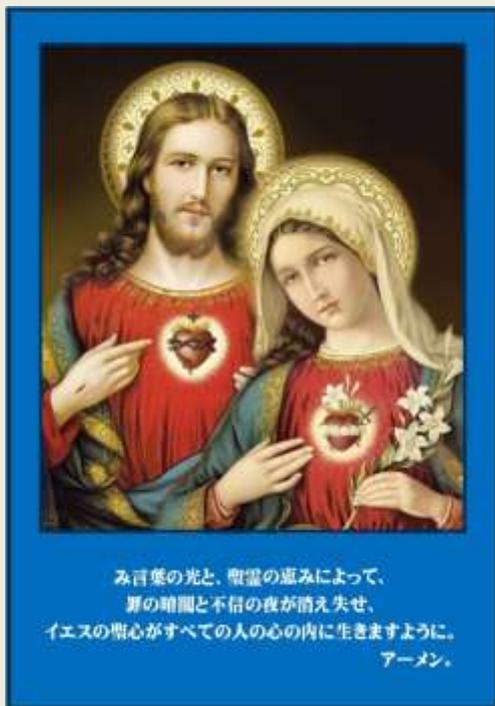
---

<sup>20</sup> 「わたしはまた、一人の天使が、底なしの淵の鍵と大きな鎖とを手にして、天から降って来るのを見た。この天使は、悪魔でもサタンでもある、年を経たあの蛇、つまり竜を取り押さえ、千年の間縛っておき、底なしの淵に投げ入れ、鍵をかけ、その上に封印を施して、千年が終わるまで、もうそれ以上、諸国の民を惑わさないようにした。その後で、竜はしばらくの間、解放されるはずである。わたしはまた、多くの座を見た。その上には座っている者たちがおり、彼らには裁くことが許されていた。わたしはまた、イエスの証しと神の言葉のために、首をはねられた者たちの魂を見た。この者たちは、あの獣もその像も拝まず、額や手に獣の刻印を受けなかった。彼らは生き返って、キリストと共に千年の間統治した」(黙 20,1-4)。

## イザヤの予言 (イザ 2:2-5)

「終わりの日に  
主の神殿の山は、山々の頭として堅く立ち  
どの峰よりも高くそびえる。  
国々はこぞって大河のように  
そこに向かい多くの民が来て言う。  
「主の山に登り、ヤコブの神の家に行こう。  
主はわたしたちに道を示される。  
わたしたちはその道を歩もう」と。  
主の教えはシオンから  
御言葉はエルサレムから出る。  
主は国々の争いを裁き、  
多くの民を戒められる。  
彼らは剣を打ち直して鋤とし  
槍を打ち直して鎌とする。  
国は国に向かって剣を上げず  
もはや戦うことを学ばない。  
ヤコブの家よ、主の光の中を歩もう。」

## 聖マリアの汚れなきみ心への奉獻



聖母マリア、イエス・キリストと教会の御母よ、いつも私の心に神のいつくしみ深い愛を注いでくださることを感謝いたします。

自分の弱さと罪深さを意識しながら、私はあなたの前で、洗礼の約束を更新して、罪とサタンと彼のすべてのわざを退け、唯一の主と救い主イエス・キリストを信じることを宣言します。「これはあなたの母です」という十字架上のイエスの遺言に従って、今日、あなたを私の母として、また、女王としてお受けします。

マリア様！イエスのみ心との一致の内に、イエスの愛に力付けられて、私はあなたの汚れなきみ心に自分自身を完全に奉獻しま

す。私の体と靈魂、心と意志、記憶と理性、考えと望み、私の命とすべての行動、決断と選択、私の時間、過去、現在、未来、外面的と内面的なもの、その他全てをあなたにお捧げいたします。父のみ旨とイエスの望みの実現、聖霊の喜びと栄光のために、また、兄弟姉妹の靈魂の救いのために、それを自由にお使ください。

これからは、あなたへの愛のゆえに、すべてをあなたと共に、あなたを通して、そしてあなたのために行うことが出来るようにお助けください。私は、自分の力だけでは何も成し遂げることが出来ません。しかし、あなたは、御子イエスのみ心に適うものならば、すべてが出来るのです。ですから、私の心、家族、小教区、故郷、そして、全世界において、神の国を実現してくださるようお願いいたします。

マリア様、私の母と女王、あなたが私の内に、また私を通して常に働き、愛してくださるようお願いいたします。アーメン。

